

第12回高知学芸高等学校同窓会徳島支部総会のご案内

日時:2026年6月20日(土)

午後4時半から受付 午後5時から講演会、講演会終了後に総会と懇親会

場所:阿波観光ホテル(徳島市一番町3-16-3、電話088-622-5161)

講演:小松 淳也 氏 (34期)

地域金融に携わって

小松 淳也氏のプロフィール

1974年5月生まれ

「香美市香北町」出身

高知学芸中学・高校卒(34期)

1993年

高知学芸高校卒業

横浜国立大学経営学部入学

1997年

四国銀行入行

高松、今治、高知、松山勤務などを経て、2024年8月より八百

屋町にある四国銀行徳島営業部に勤務

約30年間の銀行勤務で、出身地である高知県内勤務は3年間のみ。縁あって松茂町に居を構えていますが、いつもふるさとを恋しく思っています。

会費:年会費込み12,000円

(懇親会費9,000円、年会費3,000円、但し学生は年会費・懇親会費免除)

(ご夫婦でご参加の場合、年会費はお1人分のみ頂きます)

参加のご連絡: 高知学芸高等学校同窓会徳島支部 事務局 小松淳也(34期)、山本圭(29期)

問い合わせ先: E-mail: jun.nmy@gmail.com (小松)

E-mail: kei@tokushima-u.ac.jp (山本)

電話: 088-656-9916 (山本)

*電話番号は山本の職場直通電話です。可能な限りメールにてご連絡いただきますようお願いいたします。

出欠は同封の葉書にて5月末日までにお知らせください。

尚、今年も試験的にQRコードからも参加の登録を頂けるようにしました。

葉書で出欠をお知らせ頂いた方もQRコードからの登録を試して頂き、ご感想を頂ければ助かります。



にひはり

高知学芸高等学校同窓会徳島支部ニュースレター

2026年5月1日 発行

ふるさと高知を胸に、徳島の文化を楽しむ

徳島支部 会長 鎌田義人(15期)

2028年放送のNHK大河ドラマが、幕末の人物、ジョン万次郎の生涯を描く「ジョン万」に決定したと発表されました。近年、高知県では朝の連続テレビ小説や大河ドラマの舞台として取り上げられる機会が増え、県内外から大きな注目を集めています。選ばれる背景には、高知が持つ文化的魅力や歴史の厚みが評価されている証でもあり、私たち高知にゆかりを持つ者にとって大いに誇らしい出来事です。高知が育んできた文化資産の豊かさを、改めて実感させられる日々が続いています。



一方、私たち徳島支部の会員は、現在徳島で働き、暮らし、日々の生活を営んでいます。せっかく徳島にご縁があって住んでいるのですから、徳島の文化にもぜひ目を向けていただきたいと思います。先の朝ドラ「ばけげ」で注目を浴びた小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)と同時代に、徳島にはポルトガル人ヴェンセスラウ・デ・モラエスという人物がいました。彼は徳島の風土や人々の暮らしを深く愛し、その魅力を随筆として多く残しています。モラエスの著作に触れることで、私たちが普段見過ごしている徳島の文化の奥行きを、改めて感じ取ることができるでしょう。

先日、とくしま観光ボランティアガイド会による「まち歩き」に参加しました。晩年を徳島で過ごしたモラエスを追慕し、徳島での生活を探るコースで、ポルトガルに住む妹に送った絵葉書を手立てに、モラエスがよく散歩した「写楽通りと徳島城跡」を巡るもので、徳島の歴史や文化に触れる良い機会となりました。会員の皆様方にも徳島でのさまざまな体験を通じて得た気づきや学びを、ぜひ支部内で共有し、発信していただければと思います。それは徳島支部の会員同士の交流を深めるだけでなく、高知と徳島をつなぐ架け橋にもなり得るはずです。

文化は、知り、語り、分かち合うことで豊かさを増していきます。高知と徳島、それぞれの土地が持つ魅力を互いに学び合いながら、支部の活動がさらに広がり、会員の皆さまの交流がより一層深まっていくことを心より願っています。

回想

もうひとつの家～養生寮

小 松 淳 也(34期・G組)

高知学芸高校の養生寮—その名を聞くだけで、胸の奥に懐かしい感清がこみ上げてくる。

入寮したばかりの頃、私は正直なところ不安でいっぱいだった。慣れ親しんだ故郷や家族のもとを離れ、見知らぬ仲間たちと共同生活を始めるということが、どれほど大きな変化であるか、当時の自分にはまだ想像もできていなかった。

養生寮でのスタートは、あまりの部屋の狭さに対する驚きから始まった。6畳～8畳程度の部屋に同級生と共同生活。お互い机に座って椅子にもたれようものなら後頭部が当たるくらい狭かった。当然エアコンなんかあるはずもなく、不安だらけの初日だったと記憶している。

新しく始まった日々の生活は規律の中にあった。起床から就寝まで、きっちりと定められた時間割。食事・学習・消灯と、すべてに「時間」という軸が貫かれていた。最初はその規律が窮屈に感じられたけれど、今振り返れば、あの規律こそが自分を鍛えてくれた最大の財産だったと思う。

寮での食事は、仲間たちと囲む大きなテーブルが定番だった。「不味い」「少ない」など献立に文句を言いながらも、あつという間に平らげてしまう毎日。誰かが風邪をひけば皆が心配し、試験前には深夜まで互いに教え合った(頭のいい友人には逆に勉強の邪魔をしに行った)。プライバシーなどほとんどない空間だったけれど、だからこそ生まれた絆は本物だったと信じている。

寮生活の中で、私は「自立」という言葉の本当の意味を学んだ気がする。洗濯も体調管理も時間の使い方も、すべて自分次第。誰かに頼ること、自分で決断することのバランスを日々の生活の中で自然と身につけることができた。

互いに親許を離れ、本来なら思春期を迎えて反抗したりと感情的になるところを、寮友に全てをぶつけては解消していた。卒業して何年経った今でも、養生寮の仲間たちとは不思議なつながりが続いている。同じ屋根の下で青春を共にした者同士にしかわからない、言葉にならない連帯感がある。皆さんにもご理解いただける部分があるのではないのでしょうか。

養生寮は、狭くて汚かった。でも単なる「住む場所」ではなく、人として育つための、もうひとつの家だと確信している。



事務局より

第11回徳島支部会を、昨年6月21日に例年どおり阿波観光ホテルにて開催いたしました。同窓会本部からのご参加を含め、計23名にご参加いただきましたが、残念ながら学生の参加はございませんでした。新型コロナウイルス感染症の影響により、新入生世代とのつながりが約3年間途絶えたことに加え、その間に学生役員の卒業も重なり、現在は同窓会名簿をもとに連絡を試みているものの、学生との連携が十分に取れていない状況です。そのため、「学生を大切にする」という徳島支部の特色を十分に発揮できていないのが現状です。しかしながら、今後のつながりを再構築するためにも、学生の皆さんにも参加していただける場を継続していくことが重要であると考えております。会員の皆様からも学生参加促進に向けたお知恵をいただければ幸いです。本年も、次項の日程にて第12回徳島支部会を開催いたします。万障お繰り合わせのうえ、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。また、お近くに学芸高校出身の方がいらっしゃいましたら、直前でも構いませんので事務局までお知らせいただけますと幸いです。

高知学芸高等学校同窓会徳島支部 2025年度会計報告

2025年1月1日 ～ 2025年12月31日

2025年度会計実績

収入の部			支出の部		
科目	金額	適用	科目	金額	適用
前年度繰越金	238,927		ミールター発行・印刷代	7,035	プリントバック
受取利息	281		郵便代	8,140	
年会費	60,000	3千円×20人	会場費	207,000	阿波観光ホテル
懇親会費	189,000	9千円×21名	ビンゴゲーム景品	0	
学校お祝い			講演会 費用	0	
同窓会本部お祝い	30,000				
来賓お祝い	0				
寄付金	0		翌期繰越	296,033	
合計	518,208		合計	518,208	
			年度収支	57,106	

上記のとおり、ご報告いたします。

2026年6月20日 会計

監査の結果、上記報告書に間違いのないことを報告いたします。

2026年6月20日 会計監査

小松 淳也 (印)